

# 『塩見岳（南アルプス）』山行報告

記：牛山

## 1 メンバー

└ 谷内、牛山

## 2 期日

2013年12月28日(土)～30日(月)

## 3 行程

12月28日

2007年末に、谷内・小泉・牛山で登ることができず、心残りだった塩見岳への再挑戦です。

樺沢ゲートは、小さなダムを200m程上がったS字カーブの所に、工事現場の通行止めがあり、周辺に10台程の車を停めることができた。(我々以外にパジェロが一台到着した。)

そこで支度を済ませ林道を塩川小屋へ出発する。途中右岸から大きな崩落があり、塩川小屋までのルートをふさいでいる。そこは大きく高巻くことになる。

今年2度目の南岸低気圧(27～28日)が過ぎた後、私たちがルート一番乗りでペナントを頼りにラッセルしていく。三伏の尾根にもしっかりと雪が積もっており、くるぶし～所によって膝までのラッセルとなる。(2007年末には尾根には雪は少なく、氷で滑った記憶がある。)

豊口山方面ルートと合流すると、新雪の下にトレース跡があり、ずっと歩きやすくなり、16時に三伏小屋に到着した。

トレースができたことで後続の入山者は夜まで続き、小屋周辺に5張程(翌日には15張程)のテントが設営された。

12月29日

5時50分、ルート一番乗りでヘッドランプを付けて行動を開始する。

ラッセルは膝位あったが、新雪の下にわずかにトレース跡があり、それを踏み外さないようにすればスピードで前進できた。(逸れると、腰辺りまで潜った。)

本谷山で後続の世田谷パーティーが追いつくがその後また離れ、ラッセルが続く。五右衛門山(下)分岐からトラバースルートに行く。



ここからは世田谷Pと交代でラッセルとなる。

(2007年には夜中に30cmの新雪があり、この地点までラッセルに手間取ってなかなか前進できず、しかも五右衛門山を目指して雪に阻まれて敗退した。)

天気は晴。右手前方に聳える塩見岳を目にすると、登頂への期待が膨らんで勇気が湧いてくる。五右衛門山(上)分岐からは尾根ルートとなり、雪庇に気を付けながら塩見小屋に到着する。ここまでは天気が良く塩見をバックに陽気に写真を撮る。



ここからアイゼンに付け替え、雪と岩の登りになる。山頂付近は急にガスに包まれ景色は見えなくなる。天狗岩を南から越え、夏道を探りながら岩稜帯を進む。岩の斜面に氷が張りつた個所では、ストックの先とアイゼンの前爪を頼りに登る個所もあり、徐々に緊張を味わうこともできました。

11時40分、山頂到着。ラッセルしながら年末一番乗りできた充実感に浸る余裕も無いほど視界が無く下りも不安で、写真だけ撮ってさっさと下山にかかる。岩の大きなギャップや斜面とその間に氷が入った個所が多く、下りはピッケルのピックを使ってバックステップで慎重に下った。

15時53分帰着。テントの数は増え、小屋周辺に15張程に増えていた。凍ったビールも火で解かしてから開ければ大丈夫で、登頂祝いの乾杯をした。



12月30日

快晴、三伏尾根を自分たちが付けたトレースを辿って下山する。

「今日、塩見を目指す人たちは、我々が付けたトレースを辿って頂きを目指している。」と、自己満足な想像などを行っているうちに、樺沢ゲートに到着した。

車は周辺に15台ほどあり、冬の塩見岳のにぎわいを実感させられた。

#### 4 コースタイム

12月28日(快晴~曇り~雪)

スポーツ公園 5:30 樺沢ゲート 7:05 塩川小屋 8:30 尾根取付点 10:30 三伏小屋 16:00

12月29日(快晴~曇り)

三伏小屋発 5:50 本谷山 7:40 塩見小屋 10:25 塩見岳山頂 11:40 五右衛門山分岐(上)12:50 本谷山 14:40 三伏小屋着 15:53

12月30日(快晴)

三伏小屋発 6:50 尾根取付点 8:20 樺沢ゲート 9:35